

	4	5	6	7	8	9
大展示室	生誕110年一浪漫的の調べー菅野圭介展 4/13~6/23			第19回私の愛する一点展 7/2~9/23		
ふれあい館	東御発・全国へ！ テレビ放映された展覧会 4/13~6/23			ソーシャル・エンゲイジドへ芸術による社会実践〜 7/2~7/28	純な水彩画展 8/3~8/28	陶の灯り 9/1~9/23

■2019年イベントスケジュール

- 4月14日(日) オープニング講演会(要予約) 13:30~
- 5月12日(日) 菅野邦彦ジャズコンサート(要予約) 13:30~
- 6月2日(日) 荘司貴和子研修会(要予約)

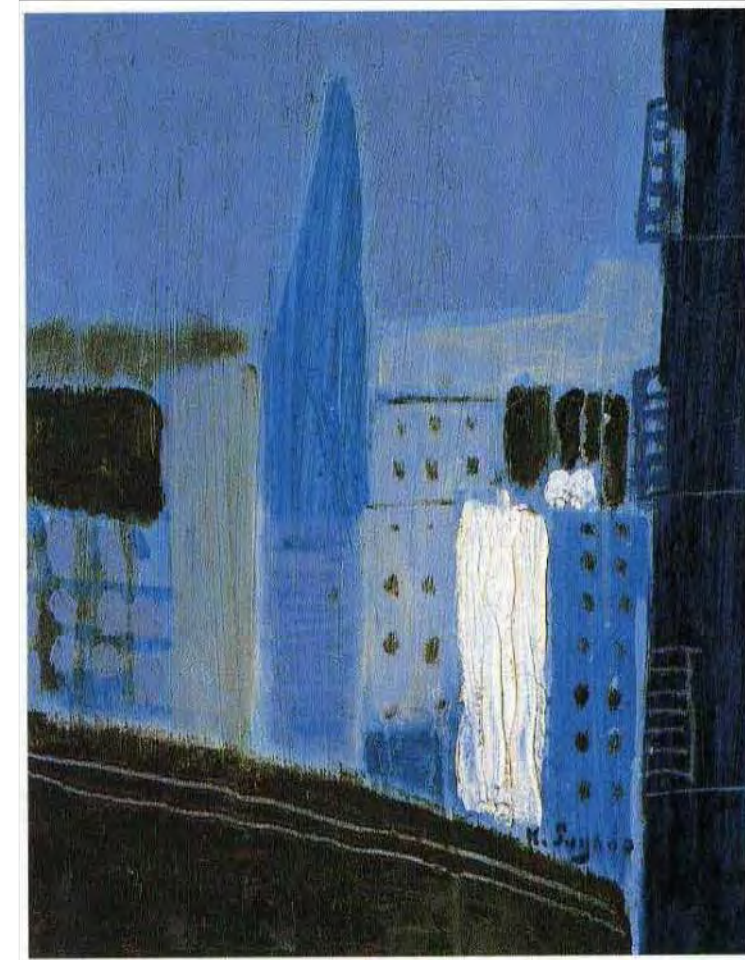
■同時開催 東御発:全国へ！ テレビ放映された企画展

■施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
 〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 TEL0268-61-6161
 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp
 開館時間 午前9時~午後5時(4時30分迄にご入館ください)
 入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)
 身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
 休館日 4月15、22、30日 5月7、13、20、27日 6月3、10、17日

■アクセス

- お車** 練馬ICから2.5時間
- 鉄道** 東京から最速2時間
しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



菅野圭介は、1930年代前半(昭和10年代から昭和30年代半ば)に活動した画家です。ちょうど第二次大戦を間にはさんでの20数年間です。混沌とした世相の中で、ひとり菅野は、時代を超越するかのよう、時のうつろいに揺らぐことなく、清冽な色彩に満ちた世界を画き続けました。不純物を取り去ったその半抽象の画面は、今も、悠久ともいえる浪漫的の調べを奏でています。

菅野は1935年に渡欧し南仏グルノーブルでジュール・フランランに師事。帰国後、独立美術協会展で注目を浴びます。

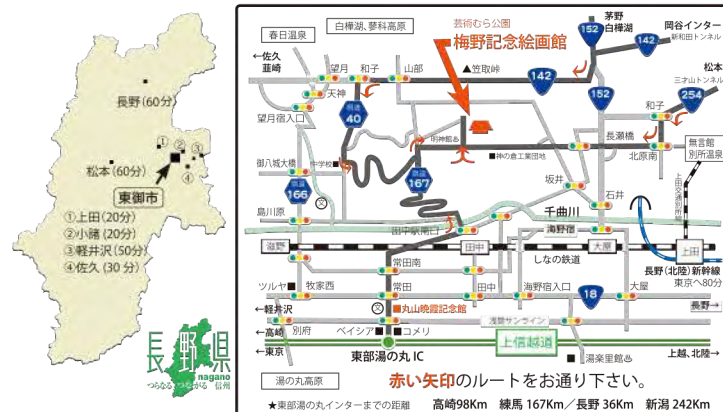
赤褐色の諧調が不思議な雰囲気をもたせた作品は、独立美術協会の実力者であった児島善三郎を驚かせました。三岸節子もまた、この画家に好感を持った一人でした。

菅野圭介は、1948年、画家三岸節子との『別居結婚』を発表します。才能ある画家同士の、入籍もせず住居も別という“新しい形”の結婚スタイルはマスコミの話題となり、画家同士もこれを機に一層の仕事の充実ぶりを見せます。

1952年、菅野は再び長期の海外旅行に出ます。北米から南米、欧州をめぐる9ヶ月の旅の成果は、より大胆な構図・色使いとなって作品にあらわれました。「暗い絵は容易である。一見暗い作品が深そうな錯覚に陥り易いが明るい芸術こそ難しいのである。」という菅野の面目躍如です。が、この長旅は三岸節子との関係を破局へ導くこととなりました。

菅野は晩年、海を主題にした作品を繰り返し画きました。砂浜と海と空とを描いた絵は、三色旗のようでワンパターンだと評されました。しかしそれこそが菅野の色彩の旋律だったのではないのでしょうか。

マンネリとかワンパターンとか誹られながらも、変わることなく、自分の詩と色と音楽をキャンバスに画き続けた画家・菅野圭介の作品群をご高覧ください。



地域の情報をラジオで発信！ Tune Now! エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは m@fmtomi785.jp

生誕110年 浪漫的の調べ

菅野圭介展

2019・4・13(土)~6・23(日)

- 4月14日(日) オープニング講演会 13:30~
- 5月12日(日) 菅野邦彦ジャズコンサート



東御市梅野記念絵画館

www.umenokinen.com 〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162

年譜

- 1909年 東京都牛込区矢来町で生まれる。本名奎介。4人兄弟の末子。
- 1914年 父徳助死亡。
- 1926年 東京高等学校に入学。美術部で油彩画を描き始める。在学中に社会主義思想の影響を受け、ハルビンに潜入している。
- 1931年 京都帝国大学文学部選科に入学、英語英文学を専攻するも、大学にはほとんど出席せず、下宿で絵を描いていたという。
- 1933年 京都帝国大学を除籍となる。映画のスーパーインポーズの翻訳の仕事をしたり帝国ホテルの通訳をしたりしていた。
- 1935年 米国ダラー汽船副社長テニーの誘いで、ロシア、ドイツ、フランスを巡遊する。
- 1936年 南仏グルノーブル近郊のフランドランのアトリエで起居を共にし師事する。第6回独立美術協会展に「湯の山」を出品、初入選。滞欧作品展開催。
- 1937年 独立美術協会第7回展に「フランダース古城」「ノルマンディの秋」を出品、児島善三郎の隣に展示される。この頃三岸節子と知り合う。
- 1938年 独立美術協会第8回展で協会賞受賞。日動画廊で第1回菅野圭介洋画展開催。
- 1940年 独立美術協会会友に推挙。
- 1941年 独立美術協会第11回展でI氏賞を受賞。
- 1942年 独立美術協会第12回展で岡田賞を受賞。
- 1943年 独立美術協会第13回展で会員に推挙される。郡司定子と結婚。
- 1944年 12月の空襲で多数の作品が焼失。水戸に転居。六人展（児島善三郎、野口弥太郎、中川紀元、川口軌外、佐野繁次郎、菅野圭介）に出品、以後1952年まで続く。
- 1945年 徴兵され横須賀に配属されるがほどなく除隊。茨城県鹿島郡諏訪村勝下の海岸の小屋をアトリエとする。
- 1946年 第1回新興日本美術展に出品、小泉清と共に読売賞受賞。
- 1947年 小樽、札幌を旅する。2年館間中断していた独立展が再開される。
- 1948年 3月、妻定子と離婚。7月、三岸節子と“別居結婚”を発表。
- 1949年 伊東に転居。北荘画廊で個展開催。名を「圭哉」と改める。
- 1950年 静岡県安良里に転居。
- 1952年 アメリカ、フランス、ヨーロッパを旅行。暮れに近作個展開催（銀座兜屋画廊）。
- 1953年 大阪梅田画廊にて個展開催。10月、三岸節子との別居結婚を解消。藤沢に転居。
- 1954年 須藤美玲子と結婚。「恵介」と改める。
- 1955年 独立美術協会展の展示方法をめぐり会員の意見が対立する。関西、九州を旅行。
- 1956年 2年間転居を繰り返す。
- 1958年 腎臓結石で入院、手術。
- 1961年 葉山にアトリエを新築。独立美術29回展に「秋」「野菜車」を出品。
- 1962年 栄養不良で倒れる。入院、手術。11月退院。
- 1963年 3月、慶応病院にて食道癌のため死去。享年53。葬儀は独立美術協会葬として営まれる。妻美玲子も2ヶ月後にあとを追った。独立美術協会第31回展に7点が特別展示される。
- 1990年 「幻の異色画家展 I 伊藤久三郎・菅野圭介・藤井令太郎」大川美術館にて開催。「浪漫の画家 菅野圭介展」美術研究藝林にて開催。
- 1995年 「匂いたつ色彩の詩 菅野圭介展」平塚市美術館にて開催。
- 2005年 「浪漫の画家 青木繁と菅野圭介展」東御市梅野記念絵画館・ふれあい館にて開催。
- 2006年 「浪漫の画家 青木繁と菅野圭介展」北九州市旧門司税関開催
- 2010年 「色彩は夢を見よ 菅野圭介展」4館巡回展開催。（横須賀美術館・一宮三岸節子記念美術館・三浦美術館・東御市梅野記念絵画館）



哲学の橋



立秋 (ハイデルベルグ)



白都利オ



蔵王



花



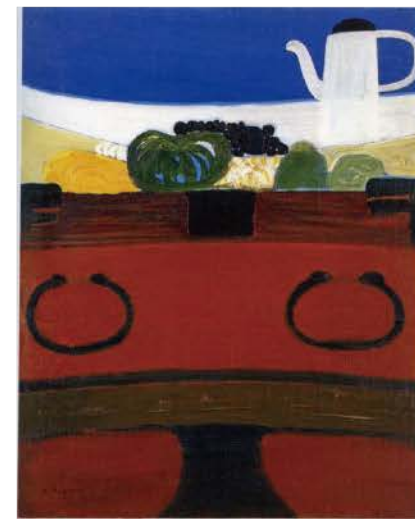
山脈



海



卓上静物



タンス